

美術博物館の催し

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432

【「The Collection」具体躍進 “芦屋の画塾 芦屋のアトリエ”展
関連イベント講演会「芦屋のモダニズム」】

■日時 1月26日(土)午後2時~3時30分 ■会場 講義室 ■定員 60人 ■講師 京都国立近代美術館学芸課長・山野英嗣氏 ■参加費 要観覧料

【「昔の暮らし 飲む・食べる―昔の人の食文化―」展関連イベント
古文書講座「かな文字入門編part.2」】

■日時 2月10日(日)午後2時~ ■会場 講義室 ■定員 20人 要予約 ■講師 当館学芸員 ■参加費 要観覧料 ■申し込み 2月6日(水)までに電話で上記へ

「第7回人形劇フェスタ芦屋」~笑おう元気に!歌おういっしょに!

■日時 2月2日(土)午後2時~3時30分 ■会場 講義室 ■定員 先着80人 ■内容 人形劇「キララちゃんとゆかいなななまたち」(ラッキーの会)人形劇「イスがにげた」(えぶるん)人形劇「はらべこおむし」(みずすまし)紙芝居「メチャクサ」(かぶとむし)南京玉すだれ(チームえびす)ほか参加型人形劇



【観覧料】一般300(240)円・大高生200(160)円・中学生以下無料
同時開催の観覧料も含む()内は20人以上の団体料金
高齢者(65歳以上)および身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちのかた、その介護のかたは各当日料金の半額
2月23日~3月3日は、「第30回芦屋市造形教育展」同時開催のため観覧料無料

谷崎潤一郎記念館の催し

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852/☎38-3244/
ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp

【文学館講座】作家・柳谷郁子が語る ~名作の愉(たの)しみ~

■日時 1月24日(木)午前10時30分~正午 ■会場 講義室 ■内容 松本清張作「誤訳」を取り上げ、作家・柳谷郁子氏が作品の背景・作家の心情などを解説 ■定員 16人 ■受講料 2,300円 ■申し込み 上記へ

《開館時間》午前10時~午後5時(入館は4時30分まで)
《1月の休館日》15日(火)・21日(月)・28日(月)

冬の公民館講座

問い合わせ 公民館 ☎35-0700/☎31-4998
(〒659-0068 業平町8-24)

足から考える介護予防(全3回)

■日時 2月21日 28日 3月7日(木)午前10時~11時30分 ■会場 市民センター301室 ■内容 「足と介護予防のお話し」トラブルの起きにくい足元環境 「正しい靴選びの基本・姿勢・歩き方のポイント」「お家で出来るホームケア」正しい爪ケアを知る ■定員 30人 ■講師 日本プロフットケア協会会員 F S I 認定フスフレガー・中塚絵美氏 ■受講料 1,200円 申し込み はがきかファクスに 講座名 住所 氏名 電話番号を記入し、2月5日(火)までに上記へ 応募多数の場合抽選(市内在住のかた優先)

CATV 広報番組ガイド

芦屋市広報番組 あしやトライあんどる 放送時間(15分)

オープニング	潮見西公園	9:00
トピックス	ザ・コレクション 具体躍進 (美術博物館)	12:00
特集	震災を語り継ぐ ~学校教育の現場では~	18:00
お知らせ	三木浩治史「特別講演 社会を変革するインターネットの可能性」	22:30
エンディング	芦屋散歩	※DVD 貸出可

■広報番組「あしやトライあんどる」は、11ch(一部地域を除く)でご覧いただけます。番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ J・COM神戸・芦屋 カスタマーセンター ☎0120-999-000

特別展開催 浮世絵の名品が勢ぞろい

3月20日~5月6日 (月曜休館・祝日の場合は翌日)

江戸時代の日本美術を代表する浮世絵は国内外を問わず、今も多くの人々を魅了してやみません。とりわけ、自らを「画狂人」と称した葛飾北斎の名作、富嶽三十六景「凱風快晴」や「神奈川沖浪裏」は芸術性の高さが評価されています。中でもその色鮮やかな青の彩色(ベルリンブルー)は鑑賞者に強い印象を与えます。ベルリンブルーは1704年(日本では宝永元年)ベルリンで発見された万年筆の青インクに類似した化合物で、その色調は澄明で、淡い水色から深い濃紺色まで美しく、さまざまな空や海、川などの青色の描写に適しています。まさに、葛飾北斎(1760~1849)の「凱風快晴」や「神奈川沖浪裏」は、このベルリンブルーを使用した先駆的な傑作です。青色絵具の変遷過程の一部、ベルリンブルーが使用される画期については、これまでも紹介される機会がありました。本展では鈴木春信・喜多川歌麿・東洲斎写楽・葛飾北斎・歌川広重などの名品から、変遷過程を一貫してご覧いただけます。

葛飾北斎



葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」

世界的にも評価の高い葛飾北斎(一七六〇~一八四九)は自らを「画狂人」と称し、非常に多くの名品を世に送り出しました。中でも文政十二(一八一九)年の作「富嶽三十六景 凱風快晴」は空一面に広がるうろこ雲とそびえたつ富士の風景が美しく、見る者の目を魅了します。同時期の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」は覆いかぶさる大波の迫力と遠景の富士山が絶妙なバランスであらわされ、そこに北斎の天才的な画技を見出すことができます。

葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」

歌川広重

風景画で有名な浮世絵師は歌川広重(一七九七~一八五八)です。中でも天保五(一八三四)年の「東海道五十三次 蒲原 夜之雪」は雪がしんと降り積もる中、蓑や笠をまとった人々が寒そうに背中を丸めて歩いている姿が印象的です。翌年の「東海道五十三次 庄野 白雨」では大雨のなか男たちがたたくましく歩を進めていく様子が見事にあらわされています。このように広重の東海道五十三次には春夏秋冬の季節感、茶店や旅する人々の表情が盛り込まれ、



歌川広重「東海道五十三次 蒲原 夜之雪」



歌川広重「東海道五十三次 庄野 白雨」

情感豊かな風景の演出に心が砕かれています。

歌川国芳

奇想画で知られる歌川国芳(一七九八~一八六六)も風景画を描いています。天保二(一八三二)年の「東都名所大森」では二人の女性が浅草海苔を収穫している姿があらわされています。画面右上の太陽の赤空や水の青との対比が印象的です。国芳は武者絵などで一躍有名になり、月岡芳年(一八三九~九二)や河鍋曉斎(一八三二~一八九九)などが国芳に弟子入りをしました。



歌川国芳「東都名所大森」

特集 芦屋市立美術博物館

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432

芦屋市立美術博物館は、平成3(1991)年に芦屋市制施行50周年記念事業として建設され、開館いたしました。美術部門と歴史部門を併せた複合施設として、名画や歴史資料をご覧いただけます。とりわけ、平成11(1999)年度に「浮世絵美人画展」、平成15(2003)年度には「東西女性・美の競演 辻本コレクション2~浮世絵とパリ・モード誌に見る装い~」が当館で開催され、近世日本美術を代表する浮世絵を多くのかたにご覧いただくことができました。そこで、新たな年を迎えた今、日本が誇る珠玉の浮世絵の名品をご紹介します。



美術博物館

喜多川歌麿



喜多川歌麿「上野花見の鉢 姫君観桜の宴」

多くの美人画を手がけた喜多川歌麿(一七五三~一八〇六)の画業のうち寛政五(一七九三)年の「当時三美人」は高い評価を受けています。富本豊ひな、難波屋きた、高島ひさという当時の三人の美女を描いたものです。遊女などの美貌を間近で觀賞したいという庶民の思いから美人大首絵が流行するようになり、歌麿はその先駆的存在でした。それまで美人画では全身が描かれていましたが、歌麿によって容貌を中心に描くものが生み出されました。

菱川師宣

江戸時代の風俗を描いた絵、それが浮世絵です。当時の人々の生活や名所風景などをうかがい知ることが出来ます。明暦三(一六五七)年の明暦大火の復興に伴い江戸で庶民向けの出版が盛んになり、それらの挿絵を描く絵師として浮世絵師は誕生しました。

大衆に向けて発行された浮世絵版画のなかでも初めて署名がなされたのは菱川師宣(一六一八~一八九四)です。師宣こそが浮世絵の創始者として現在広く知られています。師宣の延宝六(一六七八)年作、上野花見の鉢 姫君観桜の宴では琴を弾く女性、笛を吹く男性、花見を楽しむ姫君の一行が描かれています。当時上野でこのように賑やかな花見が行われていたことがうかがえる一枚です。

鈴木春信



鈴木春信「座敷八景 時計の晩鐘」

その後、錦絵とよばれる多色刷の技術を自ら手掛け、浮世絵版画を世

東洲斎写楽



東洲斎写楽「二世坂東三津五郎の石井源蔵」

役者絵で有名な東洲斎写楽(生没年不詳)は寛政六(一七九四)~九(一七九七)年にかけてその画業が知られ、一説によると能役者であったとされ、当時庶民がこぞて手に入るようとしたのは美化されたプロマイドのような役者絵でした。役者の容姿の欠点までも特徴として描く写楽の絵は受け入れられにくかったようです。

政六(一七九四年)の二世坂東三津五郎の石井源蔵では見得をきる役者の顔がユーモラスな表情で画面いっぱい大きく描かれています。当時の庶民がこぞて手に入るようとしたのは美化されたプロマイドのような役者絵でした。役者の容姿の欠点までも特徴として描く写楽の絵は受け入れられにくかったようです。